



CONTENTS

「エイズを終わらせる」? それとも「共に生きる」?	01
新人ボランティア合同研修会	02
ネスト・プログラム	03
寄付のお願い	04
部門報告(2015年7～9月)	05
書籍紹介・NO TIME TO LOSE	08
イベント紹介・TOKYO AIDS WEEKS 2015	08

「エイズを終わらせる」? それとも「共に生きる」? 持続可能な開発目標(SDGs)の下での世界のエイズ対策はどこへ

稲場 雅紀(アフリカ日本協議会)

「エイズのない世界」:今から7～8年前、たしかジュネーブでこの言葉を聞いて、違和感を覚えたのを思い出す。日本でエイズに取り組むとき、私たち市民社会や当事者運動のビジョンは「共に生きる」であり、「エイズを終わらせる」ではない。しかし、世界のエイズ対策は、十分な一貫性を伴わない中で、「エイズを終わらせる」という方向に向かっているように見える。

9月25日、ニューヨークで開催された「国連ポスト2015サミット」で、来年から2030年までの世界の開発や環境の取り組みの目標となる「持続可能な開発目標」(SDGs)が採択された。この新目標は、世界を「持続可能」にすることを目的にしているが、どういうわけか、感染症に関するターゲットだけは、「2030年までにエイズ・結核・マラリアおよび顧みられない熱帯病を終結させる」と、とにかく「エンド」にこだわるのである。

「エンド・エイズ」が主流化したのは、2011年の国連エイズ・ハイレベル会合である。ここで「新規感染ゼロ、差別ゼロ、エイズ関連死ゼロ」という「3ゼロ」目標が提示、「2015年までに母子感染ゼロ」の大方針も示された。さらに2012年、「早期のエイズ治療導入で、HIV陽性者とHIV陰性者のカップルの96%でHIV感染を防ぐことができる」という研究結果が発表、「治療＝予防」が主流化した。国連合同エイズ計画(UNAIDS)は、「2020年までに、HIV陽性者の90%を検査し、その90%を治療し、その90%のウイルス量を検出可能値以下に下げる」という「90-90-90」目標を打ち出し、アフリカ諸国などでは、援助機関や政府が旗を振って、母子感染予防を軸に、「治療＝予防」の考え方に基づくプロジェクトが相次いで開始されている。

何かを忘れていないか、と思う。忘れられているのはコミュニティだ。エイズ治療薬は一生飲み続けなければならないが、貧困国の現場では、治療薬を飲み続けるのは大変だ。十分に食べられず副作用が強くて、治療を続けられ

ない、公的医療機関による横流しで薬の品切れが日常茶飯事である、等々、問題は山積だ。一生に渡る治療継続には、コミュニティによる動機づけと強い保健システム構築が欠かせない。では、コミュニティ形成の努力は十分に報われ、投資されているのか? そうではない。中所得国以上の国では、外部からの援助資金の撤退とともに、エイズ対策が、各国の保健予算の範囲内で行われる公共の保健・医療制度に統合され、MSMやセックスワーカー、ドラッグユーザーなど、対策のカギとなるコミュニティでの予防やケアの取り組みは弱体化する傾向にある。国会での議論の結果、薬物使用によるHIVへの公的資金拠出ができなくなった国もある。また、TPPなど自由貿易協定による、医薬品特許強化の流れも、貧困な国でのエイズ治療の拡大を困難にしかねず、懸念材料となっている。

エイズに取り組む国際的な市民社会は、より積極的なエイズ対策を、と常に大声を上げてきた。しかし、アフリカ、アジアの現場でエイズに取り組む関係者たちをはじめ、「エイズを終わらせる」性急な流れへの違和感を表明する人たちが徐々に増えてきているように思う。実際に重要なのは、たとえば治療薬を持続可能な形で飲み続けられるような環境づくりであり、コミュニティ作りを通じた持続可能な予防やケアの実現だ。

2030年に向けて国連が打ち出す新目標は「持続可能な開発目標」だ。問われているのは「持続可能性」であって、感染症対策だけが「エンド」を目標にする必要はない。「共に生きる」原点に戻り、「持続可能」な対策を継続、拡大する中で、中長期的にHIV/AIDSを克服していく戦略が求められている。そのためには、資金の出し手の意思も問われる。目先のスローガンや短期的な数字の如何で資金拠出をし、上手いかなければ資金を減らす、といった現代の援助のトレンドは改められるべきだ。実は、「持続可能」な取り組みこそ、資金の出し手の覚悟を問うのである。

新人ボランティア合同研修会

2015年度の新人ボランティアの合同研修が、8月30日のオリエンテーションに引き続き、9月6日(日)、13日(日)、23日(水・祝)の3日間の日程で開催されました。研修の報告と参加者の感想文をお届けします。

今年も秋のぶれいす東京恒例となった、各部門合同の新人ボランティア研修会を開催しました。3日間の研修に、みなさん連日朝の10時から夕方5時までのスパルタ？に、文句も言わずにご参加いただきました。研修では、自分自身を振り返る機会もあり、予想以上に濃い3日を過ごしていただいたと思いますが、みなさま本当に疲れさまでした。

今後の活動は、自分のペースで、楽しみながら、無理なく続けていただければと思います。細く長く、今後ともよろしく願いいたします。(牧原)

研修参加者より▶▶▶

「学び考え、活かしたい」 MT54

ボランティアとして何かやりたい！ではなく、ぶれいす東京の活動において私に何かできることはないだろうか？という気持ちでボランティア合同研修会に参加しました。3日間とはいえ、朝から夕までの時間を講義やワークショップなどで中身の濃い内容でした。特に印象的だったのは、社会的背景でHIV/エイズの30年史を振り返り、症例報告、感染経路などを知ること。差別的行動等それらに対する世界や日本での動き、先進国で広がることが多いお話が印象に残りました。医学的知識では感染症としてどのような経過をみて治療を行っているのか。それぞれに私自身の知識、情報の少ないところを補いながら意識していくことができました。

またワークショップ、ロールプレイングでは参加者がいくつかのグループに分かれ、感染を知った陽性者の心の動きや行動が様々であったこと。その周りにいる家族・パートナーが知られることで、どう行動していたのか読み聞き、大切な人とどう向き合うか、どんな言葉で相手に伝えたらよいのか。性感染のリスクがどれほどのものであるか探り出し、話し合い、答えが一つではないことに考えさせられました。研修の1日が長いだろうと思っていたのですが、振り返ると3日間があっという間に研修が終わってしまいました。

初めてのボランティア活動参加で、このような機会をいただきありがとうございます。頑張ります！



「手記を読むワーク」
グループにわかれて手記を読み感想を共有する

	9月6日(日)	9月13日(日)	9月23日(水・祝)
午前	グランド・ルール	グランド・ルール	グランド・ルール
	社会的な背景(池上)	陽性者の社会生活(生島)	制度や社会サービス(牧原)
	休憩	休憩	休憩
	医学的基礎知識① HIVの基礎知識と検査法(福原)	医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識(福原)	エゴグラムと交流分析(野坂)
	昼食	昼食	昼食
午後	手記を読むワーク(スタッフ)	セイファーセックス リスクアセスメント(スタッフ)	相手のある保健行動 コンドーム使用と 使用依頼(生島/スタッフ)
	休憩	休憩	休憩
	セクシュアリティの 多様性について(大槻)	ネストプログラムの 取り組み(ネストスタッフ)	3日間の振り返り
	振り返り	振り返り	今後の活動について

「10年目の節目に」 まれ

ぶれいす東京のボランティアに募集したきっかけは、私がHIVに感染してから10年が過ぎ、生活、服薬、心のバランスなどが落ち着き、この節目に何かしたいという気持ちです。連続した週末の3日間の限られた時間内の研修は、内容がぎっしりでした。座学では、私がかかったつमोरのHIVの知識はほんの一握りに過ぎないことで、いつときも聴き漏らすことがないようにスタッフの話聞いてました。その中で印象的だったのは『医療は進歩し続けているにも関わらず、社会の偏見は強いまま』です。私自身10年前と比べてみても、まさにこの通りで痛感してます。

また、グループワークでは環境のそれぞれ異なる参加者の意見を元に、様々な可能性を見つけ合うというふれあいが、初対面で打ち解けにくい環境を払拭させてくれました。研修を重ねる毎に、誰かの力になりたいという気持ちが全員同じということ、最終日のふりかえりで感じ取れました。

「私の出来ること」 Y

ピンときた。ぶれいすでボランティア募集してるって。ちょうど探してた。自分が打ち込める何かを。色々模索しているところで、偶然このボランティアが引っ掛かった。すぐに牧原さんにコンタクトを取った。何かが始まると思ったら胸が踊った。

実際、研修を終えてみて、自分の予想外のことばかりだった。

まず仲間たち、志が高い。真剣な眼差し。ちゃんと伝わってくる。私の志はそんな崇高なものではない。ピンとはきたけど、わりと思えば行動、みたいな、比較的気軽なものだった。でも、そんな仲間たちとの交流は濃密で、貴重なものになった。と同時に自分と正面から向き合うことにも繋がった。

これはホントに予想外だった。何か誰かのお役に立てれ

ばと思っていたのが、なんとその前に、正面から自分と向き合うとは。プライベートで色々あってちょうど自分に向き合おうとしているタイミングが重なったかな。

私が出来ることを、肩の力抜いて自分が助けるなんて思わないで、コツコツやっつけていこう。細く長く続けていこう。



「医学的基礎知識」のレクチャー
①基礎知識と検査法(1日目)、②性感染症の基礎知識(2日目)



ワーク「セーフターセックス・リスクアセスメント」
さまざまな行為を書きだして感染リスクについて考える

「扉を叩いて」 石原

長くも短かった合同研修を終え、今はホットライン部門の研修を受けています。男女問わず様々な価値観を持った人が同じ目標に向かい切磋琢磨しました。この研修は恰好つけられません。今までの自分が被っていた殻を破りありのままの姿をさらけ出すからこそ相手に自分が伝わると思いました。皆さんも、そして私も様々なカムアウトをしました。しかしこの場の方々はそんな多種多様な価値観を認め合う雰囲気があったと思います。それは生島さんをはじめスタッフの方々の長年のご尽力の賜物だと思います。そしてその雰囲気に惹かれて集う人たちだからでしょう。

私は幼い頃から吃音持ちで人と話す事が恐怖でした。同じ吃音持ちである事をカムアウトした大学時代の恩師と仲良くなり、社会福祉士の取得を勧められ克服して現在に至っています。どんな人でも、今の自分を受け入れて一緒に考えて支えてくれる人がいれば未来はいくらでも出来ると思います。



「相手のある保健行動～コンドーム使用と使用依頼～」
コンドームの使用を依頼する/される場面をロールプレイで体験する

ネスト・プログラム

さまざまなネスト・プログラムの中から、2015年8月22日に行われた第6回ピア+トーク「HIV陽性者とセーフターセックス」の感想文をお届けします。

第6回 ピア+トーク

「HIV陽性者とセーフターセックス」

さまざまな経験をもつHIV陽性者を迎えてお話をうかがうイベント「ピア+トーク」。第6回目が「HIV陽性者とセーフターセックス」と題して、ゲイ/バイセクシュアル男性限定で8月22日に開催されました。

HIV陽性者スピーカー3名と講師に井上洋士氏(放送大学)を招き、さらに4名のHIV陽性のネストボランティアが司会の手伝いをしてくれました。参加者は6名でした。スピーカーからは、自分ひとりではなく相手がいるうえでの予防行動やその難しさについて「相手任せで結果的にうまくできていない」、「最近、やり取りが上達した」、「以前は薬物を使うなど自暴自棄になっていて、うまく使えていなかった」などの語りがありました。講師の井上氏からは、アンケート調査の結果から日本のHIV陽性者の傾向の解説やアドバイスをしてもらいました。

参加者3名とネストボランティアの感想文をお届けします。

「よくわからないから、話せる」 ぴーぽくん (26歳/男性/感染告知年：2012年)

ふれいす東京さんの会に参加させて頂くのは今回で2回目でした。テーマはやはり「HIV陽性者とセーフターセックス」。その場にいた人達の共通点はたった2つ。「ゲイ(又はバイ)で、HIV陽性である」こと。面識もほとんどない方たちとセックスについて語り合うなんて、ハードル高っ…という考えはすぐに杞憂に終わり、「よくわからない」相手だからこそ話せることがあるんだなと実感できました。

進行内容は2班に分かれ意見を発表し合ったり、3人の先輩方の一問一答コーナーがあったりと、なかなか濃密&ハード。皆さんのぶっちゃけトークに妙に感心したり不覚にも爆笑してしまう場面もありました。

でも、よくよく考えればこれって私達HIV陽性者にとっては永遠の課題であったりして。考え方も人の数だけあって当たり前だな~と思う場面もありました。帰りの電車の中で皆さんの発言を思い出しながらつくづく実感しました。スタッフの皆さま、参加者の皆さま、貴重なお時間ありがとうございました。

「ひとりじゃない」 シン

(感染告知年2012年/服薬歴2年/初参加/40代)

「仲間がいるって本当に素敵な事だな」

今回参加させていただいたピア+トークが終わった時に、まず真っ先にそう思いました。

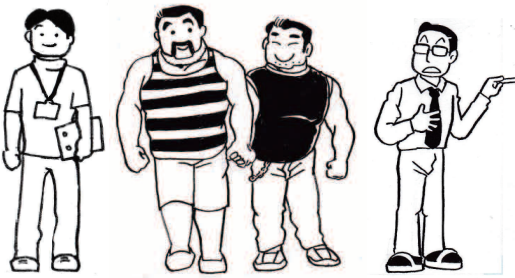
最初、円を作って一人一人の顔が見渡せる席に着いた時は、みんな若干うつむき加減でどこかごちない表情をしていましたが、3時間共に共有した時間の後にはみんなの顔には安堵と笑顔がありました。

普段親しい友達とも中々話す事のないHIVの事やセーフター・セックスについて、赤裸裸にいろいろな話ができただ事で、ほとんどの方が初めて会う方々ばかりでしたが、終了後には何とも言えない結束感や安心感が生まれました。

HIV感染告知を受けたあの日、頭が真っ白になり、家族や友達になんて話したら良いんだろう、仕事は今後どうしたら良いんだろう、治療や通院はどのようにしたら良いんだろう、そんな分からない事だらけで不安になった日から、今ここにこうして同じような事で不安を抱え、悩みながらも一緒に歩んで行ける仲間がいる事、普段誰に話したら良いのか分からない事でも話ができる場所があると言う事を知ったのが何よりも心強いです。

もしも、今あの日の自分のように不安や心配で押しつぶされるような気持ちになっている人がいたら、是非知ってほしいことがあります。それはあなたは決してひとりではないって事、そしてあなたと共に歩んでくれる仲間がいる、あなたを受け入れてくれる場所があるという事を、是非心に留めて自分のペースで大丈夫だから一歩一歩前に向かって進んでみませんか？

きっと今の自分を思い出して、笑顔で明日を迎えられる日が来ますよ、一緒に。



「怖さや孤独感が軽くなった」 Takashi

「SEX」できっとこの病気へ感染。そのことが頭と身体にしみついているのか、告知後から人と肌を重ねるSEXはゼロ！！(頭の中で想像することで疑似恋愛している感じでした。)

1番は自分が感染したように相手へ感染させることへの不安。病気への偏見などたくさんのネガティブ思考でどんづまり。今回のトークで1番感じたのは、病気に対する無知！！情報量のなさです。きとお医者さんやスタッフさんに何かあれば聞くという他人まかせだったからと思います。(反省)

そして自分は1人で解決するには限界があると感じていたので考え方は様々でも、同じ病気の人の話を聞くことで、自分の中の怖さや孤独感などが軽くなったと思います。全てが悩み0になることは難しいかもしれませんが、支えてくれる人がいるってスゴイと思います。

まずは自分から動いて知ろうとするアクションも必要だと。トークに参加して感謝です。ありがとうございました。

「ナマセックスにだってワケがある」 せき

今回、参加者と同じくHIV陽性者として進行役を行う「ピア・ファシリテーターをしてほしい」との打診を受けたものの、結果は一参加者としてとても有意義なものでした。

スピーカーの話やアンケート調査の結果を聞いて驚いたのは、自分自身では全くありえない、ナマで抜き差しセックスする人が結構な数でいることです。そしてそうした人でも何かしらの考えがあるのだなということが分かったことでした。何が悪い悪いじゃなく、この多様性に触れ、Safe SexでなくSafer Sexであるその意味を改めて考えるいい機会にもなりました。何より、参加者の方々の声を聞くことで、自分自身のセックスのあり方を再確認できたことは気持ちをスッキリさせてくれるものでした。

人生の中で、セックスの話をじっくりする時間は滅多にあるものではありません。従って今回のような場は、自分自身を理解するとともに、どこかアタマの片隅で居心地悪く残っているセックスにおけるリスクを、ただ不安や恐怖で終わらせず、自分なりの答えにすることで、結果として今後の人生をよりよくする大切なきっかけになると強く感じました。主催の方の準備・実施は大変と思いますが、ぜひ継続していただきたいと願っています。

寄付のお願い

新規HIV感染報告数は年々増え続けています。新たな治療法は開発されていますが、治療を続けながら生活する上での困難さが解消されたわけではありません。HIV陽性者とその周囲の人たちへの支援サービスの提供、コミュニティとして取り組んでいる予防活動など、私たちの活動へのニーズはますます高まっており、必要な経費も増え続けています。よりよいサービスやプログラムを継続するために、ぜひ私たちの活動を資金面からも応援してください。

詳しくはWebサイトへ ▶▶▶
<http://www.ptokyo.org/support>



●銀行振込で寄付

1万円以上寄付された方には当該年度の活動報告書をお送りします。
ご希望の方は、報告書の送付先をメール/電話/FAXでご連絡ください。

●クレジットカードで寄付

Web上からクレジットカードで寄付ができます。
自動引落で毎月定額を寄付することもできます。

●賛助会員

継続して応援してくださる方は賛助会員になってください。
賛助会員のみなさまには年間活動報告書と季刊(年4回)のニュースレターをお送りします。(年一口1万円~)

●BOOK募金

引越しなどで不要になった本やDVD、CD、ゲームなどを「BOOK募金」に送るだけで、簡単にぶれいず東京に寄付ができます。

部門報告 (2015年7～9月)



ホットライン

HIV/エイズ電話相談(ふれいす東京および東京都委託)

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数
 東京都電話相談連絡会全体会 7/20(12名)
 スタッフミーティング 8/16(8名) 9/20(8名)
 世話人会 8/16(5名) 9/20(5名)
 個別ミーティング 9/12(2名)
 東京都電話相談連絡会 8/14(3名) 9/11(3名)
 新人研修オリエンテーション 9/26(7名) 9/28(3名)

相談実績報告

ふれいす東京エイズ電話相談

	7月	8月	9月
日数(日)	4	5	4
総時間(時間)	16	20	16
相談員数(延べ)	4	5	4.5
相談件数(件)	41	54	38
うち(男性)	38	47	35
(女性)	3	7	3
(不明)	0	0	0
陽性者相談	2	1	0
確認検査待ち	0	0	0
1日平均(件)	10.3	10.8	9.5

東京都夜間・休日エイズ電話相談(委託)

	7月	8月	9月
日数(日)	13	14	12
総時間(時間)	39	42	36
相談員数(延べ)	28	29	27.5
相談件数(件)	244	224	212
うち(男性)	154	164	151
(女性)	90	58	60
(不明)	0	2	1
陽性者相談	2	3	3
確認検査待ち	0	1	0
1日平均(件)	18.8	16.0	17.7

この3ヶ月、東京都もふれいす東京も相談件数は安定していました。ふれいす東京の合同研修が終わり、いよいよ部門研修に移ります。今年に入ってから人員不足になっているので、早く仲間になって欲しいと思います。

(報告：佐藤)



ボディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

ボディ担当者ミーティング

[7-9月実績]

7/4…2名 7/16…5名
 8/6…3名 8/20…4名
 9/3…3名 9/17…6名
 ※個別ミーティング 6件

利用者数

12カ所の医療機関に通院/入院中の19名の方に22名のボディスタッフを派遣

活動内容(2015年9月末現在)

派遣継続中	19件
在宅訪問	17件
病室訪問	2件
派遣休止	5件

7月～9月中の動き

- 新規派遣・相談 1件
- 派遣調整 17件

今後のミーティング日程

午前ミーティング：

偶数月第1木曜 11:00 / 奇数月第1土曜 11:00

12/3(木)、1月は中止、2/4(木)

※木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング：

毎月第3木曜 19:00

12/18(木)、1/21(木)、2/18(木)

ボディの現場から

新規の派遣が1件始まりました。在宅で単身の車いす利用の方から外出の付き添いの希望があり、9月から担当も決まり派遣が始まっています。また9月には継続派遣の利用の方が、別の疾患で入院となり、在宅から病院へ訪問先が変わったケースもありました。今年度は、安定している方でも入院をするなど、状態の変化が起こる方が多く、ボディも柔軟な対応を求められています。

(報告：牧原)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

ネスト・プログラム参加状況(2015年7-9月)

グループ・ミーティング

- 新規陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第80期 (参加者6名)
7/4 7/25 8/8(修了)
- 新規陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第81期 (参加者4名)
9/30
- ミドル・ミーティング
7/11(23名) 9/12(18名)
- 異性愛者のための交流ミーティング
7/25(15名,ピア・ファシリテーター2名)
8/21(6名,2名) 9/26(12名,2名)
- Women's Salon
7/4(3名)
- 陰性パートナー・ミーティング
8/1(6名)
- もめん会の会(母親を中心とした親の会)
9/9(2名)

学習会/セミナー/ワークショップ

- 専門家と話そう第16回「クリニックのドクターと話そうⅡ」
ゲスト：岩本愛吉さん
(品川イーストクリニック 感染症内科/元東京大学医学研究所)
9/26 (14名)

- ・ストレス・マネジメント講座第24期-3
7/6(11名)
- ・アサーティブ・コミュニケーション第6期
7/18(5名) 7/19(5名)
- ・ベーシック講座「HIVってどんな病気？」
7/17(1名)

交流会

- ・就職活動サポートミーティング
7/15(5名) 8/22(5名) 9/16(5名)
- ・介護職として働く陽性者のミーティング
8/24(9名)
- ・看護師として働く陽性者のミーティング
7/18(7名) 9/19(8名)

ミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

- ・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
8/12(3名、6名)

ピア・ファシリテーターによるプログラム等 (厚生労働省委託事業)

- ・U40(アンダー・フォーティ)ミーティング
～10代から30代の男性HIV陽性者のミーティング～
7/22(参加者12名、ピア・ファシリテーター2名)
8/29(9名、2名) 9/28(10名、2名)
- ・MT10(10人のグループ)
9/5(8名、2名)
- ・障害者枠で働く陽性者の交流会 7/12(6名)
- ・教師として働く陽性者の交流会 8/23(8名)
- ・第5回就職支援セミナー
7/24(23名、参加企業など4社)
- ・ピア+トーク 第6回「HIV陽性者とセーフなセックス」
ゲスト：スピーカー3名
井上洋士さん(放送大学教養学部教授)
8/22(参加者6名、ピア・ファシリテーター4名)
- ・セクレタリー(24回 24名)
- ・ピア・ファシリテーター(12回 22名)

ネスト・ニュースレター

7/2:7月号発行 8/7:8月号発行 9/3:9月号発行

新装Women's Salonスタート!

2015年7月から、新たに3人のファシリテーターが順番に司会進行することになりました。Women's Salonの新たなスタートです。参加者とファシリテーターの感想がWebサイトに掲載されているので、ぜひご覧ください。

<http://www.ptokyo.org/nest/program/5733>

(報告:はらだ、佐藤、加藤)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.org/>

Gay Friends for AIDS 電話相談

7月 10件(1日平均2.50件)
8月 17件(1日平均3.40件)
9月 12件(1日平均3.00件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

7月:0件
8月:0件
9月:0件

新スタッフ合流で大幅パワーアップ!

毎年恒例の9月の合同研修を終えたスタッフが合流し、またGフレ電話相談にもホットライン部門で活動していたスタッフが加わるなど、この秋は実働スタッフが大きく増える見込みです。学会周辺のイベントサポート、そして来年以降のGフレ自身のイベント企画などのミーティングも進行中です。

(報告:sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績 2015年7月～9月

	7月	8月	9月
電話による相談	121	119	101
対面による相談	69	52	57
E-mailによる相談等	111	59	81
うち新規相談	25	21	24

※メール新規は含まず

7～9月新規相談者の属性(N=70)

陽性者: 46人(男性:45 女性:1)
パートナー: 10人(男性:8 女性:2)
家族: 0人(男性:0 女性:0)
専門家: 3人(男性:3 女性:0)
確認検査待ち: 4人(男性:3 女性:1)
その他: 7人(男性:5 女性:2)

7～9月新規相談者の情報源(N=70 複数回答)

WEB(PC/携帯サイト含): 33件
医療関係(Dr.、Ns.、MSW、クリニック他): 15件
冊子/パンフ: 6件
人的ネットワーク(家族、本人、パートナー他): 4件
他の陽性者: 3件
電話相談: 2件
カウンセラー: 2件
以前から知っていた: 2件
ハローワーク: 1件
障害福祉課: 1件
その他: 1件
不明: 2件

7～9月新規相談の内容(複数回答)

【ぶれいす東京のサービス利用、積極的参加等】(関東)

- ・利用登録×9
新人PGM×2、異性愛×2、陰性パートナー×2、U-40×2、ミドル×2、MT10×1、カップル交流会×1、就職支援セミナー×1(複数選択あり)
- ・利用登録の電話インテーク×2

【検査や告知に関する相談】

【関東、甲信越/北陸、東海、近畿、海外】

- ・郵送検査で陽性が判明
- ・結核が判明し、保健所で自分で検査して陽性
- ・癌の術前検査で判明した
- ・(判定保留)確認検査待ちの不安や混乱×3
- ・(判定保留)検査の信憑性×3
- ・(判定保留)周囲への通知
- ・(判定保留)郵送検査で陽性、確認検査機関の選択

【告知直後の漠然とした不安】(関東、東海)

- ・今後の漠然とした不安×3
- ・CD4の数値や寿命など
- ・転職で病気がバレないか

【対人関係に関する相談】〔関東、近畿、海外〕

- 家族との関係性の悪さ、理解のなさへの不満×3
- 離婚問題×2
- 自分の親、結婚相手の親への通知
- 感染の可能性があるパートナーへの通知

【生活に関する相談】〔北海道/東北、関東、近畿、九州/沖縄〕

- 生命保険の契約の継続、新規加入×6
- 今後の生活への不安×2
- 住宅ローンについて
- 手帳取得での経済的な保障

【就労に関する相談】

〔北海道/東北、関東、近畿、中国/四国、九州/沖縄〕

- 精神疾患も持ちながらの再就職×3
- 障害枠での就職活動、就労×3
- 今後の就労×3
- 発症後に職場復帰したがしんどい、就労の継続×2
- 療養と就労のバランス
- 入社時の健康診断や障害者控除で会社にバレないか

【医療体制や受診に関する相談】〔北海道/東北、関東、東海、近畿〕

- 服薬中断の検討、中断中の相談×2
- 服薬の継続のしんどさ
- 病院の変更
- B型肝炎の治療
- 通知したら歯科に断られた、受診可能な歯科について
- 尿道炎でCD4が200以下になり不安
- 服薬の不安定さ
- 皮膚科での無断検査への不満
- 医療従事者との関係性

【心理や精神に関する問題】〔関東、中国/四国〕

- 病気の受容ができない
- 自暴自棄な側面がある
- 地方在住で誰にも言えず息苦しい
- 薬物で仮釈放中

【周囲の人からの相談】〔関東、近畿、九州/沖縄〕

<パートナー/配偶者/元パートナー>

- (パートナー)自分の感染の可能性
- (パートナー)彼の経済問題が発覚、今後の関係性
- (パートナー)相手の交友関係への不信感
- (パートナー)結婚予定の相手から通知を受けての混乱
- (パートナー)日常生活での注意点
- (パートナー)陽性のパートナーの無気力が気になる
- (配偶者)夫が肺炎で発症し入院中、子供へのHIVの感染不安
- (配偶者)離婚を言われている、相手はうつ状態

<家族(親、兄弟)/親戚>

- (叔父)陽性の親戚が素手で剥いたぶどうを食べていいか

<その他>

- (友人)同居人から通知、一緒に生活して問題ないか
- (友人)未服薬の友人との風呂や箸の共用での感染不安
- (周囲)一緒に食事で感染しないか

<専門家>

- (介護事業所)バディサービスの問い合わせ
- (障害者相談支援センター)バディサービスの問い合わせ
- (障害者相談支援センター)グループミーティングの問い合わせ

(報告：牧原/生島/福原)



研究・研修部門

研究事業

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業

「地域においてHIV陽性者と薬物使用者を支援する研究」

(研究代表者：樽井正義)

- 8月2日：平成27年度研究計画ヒアリング会にて発表(於 東京医科大学病院)。
- 8月3日：「MSMの陽性者の調査データから見える、メンタルヘルス上の課題についての勉強会」を井上洋士氏を招いて開催(於 ぶれいす東京)。参加者5名。
- 前研究班の研究成果を反映させ、パンフレット「職場とHIV/エイズ」の改訂作業を実施。
- 研究成果発表会「HIV陽性者とメンタルヘルス～薬物使用は生き辛さの現れか？」(11月29日開催)の企画等を実施。

その他研究協力

- 「UNAIDSが掲げる臨床評価指標90-90-90達成のための男性同性愛者に対する新しいHIV検査システムの構築に関する研究」(主任研究者：岡慎一)への研究協力として、8月20日より毎週木曜日19～22時に、検査キット「HIVcheck」配布場所のaktaに、相談希望者に対応する相談員を派遣。(計6回)

研修事業

ぶれいす東京新人ボランティア合同研修・オリエンテーション

- 8月30日：ボランティア・オリエンテーションを開催(於 新宿NPO協働推進センター)。参加者29名。
- 9月6日・13日・23日：ボランティア合同研修を開催(於 新宿NPO協働推進センター)。参加者25名。

職場研修

(東京障害者職業センター「雇用管理サポート事業」など)

- 7月3日：都内特例子会社にて講演。参加者10名。
- 9月24日：株式会社クレディセゾンにて講演。参加者24名。

その他講師派遣・研修など

- 7月27日：都内ヘルパー派遣NPOにて講演。参加者15名。
- 8月8日：『がん経験者のための就活ブック～サバイバーズ・ハローワーク～』出版記念トークイベントにて講演。参加者70名。
- 8月10日：「ACT UP&TALK OUT」にて講演。参加者60名。
- 8月31日：東北HIV検査担当者研修にて講演。参加者19名。
- 9月5日：「LGBT職場環境アンケート報告会 データを職場環境改善のチカラに in 東京 2015」にて講演。参加者90名。
- 9月5日：東京迂回路研究フォーラム「対話は可能か？」にて講演。参加者60名。
- 9月15日：茨城HIV感染症研究会にて講演。参加者45名。
- 9月27日：「HIV/AIDS支援サポーター養成講座 in 浜松 2015」にて講演。参加者12名。
- 9月29日～30日：沖縄県研修会にて講演。参加者9名。

(報告：生島/牧原/大槻)

ピーター・ピオット著

NO TIME TO LOSE エボラとエイズと国際政治

産経新聞特別記者 宮田 一雄

ザイル(現コンゴ民主共和国)の小さな村で発生した謎の感染症の治療と調査のために国際調査団が派遣されたのは1976年だった。流行が首都キンシャサに広がることを調査団のメンバーは最も恐れた。若き団員だったピーター・ピオット博士はこう書いている。

『無秩序な巨大都市でインフラは貧弱、政府は信頼できない。独裁的な政府を無視することに慣れた300万人の市民が暮らしている』

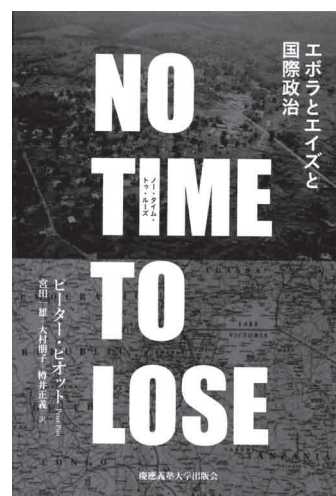
その最悪のシナリオは38年後に西アフリカで現実のものとなった。

ただし、人類はそれ以前に一段と厳しいパンデミックを経験している。1983年10月、キンシャサの病院を訪れ『朝だけでエイズと思われる症例を50例以上』も診た後、博士は『1976年の悪夢』を思い出す。

『しかも、この新たな流行はすでにキンシャサを襲っていた。私を知る限りでも、この流行による死者はエボラよりはるかに多くなりそうだった。エイズには見えない部分が多く、それは制御不能ということでもあった。エボラは序曲に過ぎなかったのだ』

本書は国連共同エイズ計画(UNAIDS)の事務局長を14年も務めたピオット博士の回想録である。エイズ対策を通し国際政治の現場にも足を踏み入れていく。まさに波乱万丈。南アフリカのネルソン・マンデラ大統領、中国の温家宝首相、キューバのフィデル・カストロ議長と登場する役者もそろっている。

エイズ対策に携わる人には、自分たちの日々の活動が歴史的にどのような意味を持っているのかを再確認する機会にもなる。訳者が言うのも差し出がましいのですが、面白くてためになるといいますか……。ぜひ、読んでください。



著者 ピーター・ピオット
 訳者 宮田一雄
 大村朋子
 樽井正義
 発行 慶應義塾大学出版会
 定価 本体2700円+税

TOKYO AIDS WEEKS

TOKYO AIDS WEEKS 2015
UPDATE YOUR REALITY

11/21~12/12

HIV/エイズをめぐる現実は何ものすごいスピードで変化している。

12月1日の世界エイズデーの前後の期間に、「TOKYO AIDS WEEKS 2015 UPDATE YOUR REALITY」が、国立国際医療研究センターをメイン会場として開催されます。

この期間に開催されるイベントに大きく橋を渡すことで、市民のHIV/エイズへの関心を高め、知識やイメージの適正化(アップデート)を啓発するものです。

この企画は、第29回日本エイズ学会・学術集会(会長:岡慎一)のプレイベントとして企画され、運営には複数のNGOがかかわっています。詳細は、フライヤーまたはWebサイトを参照ください。

イベント紹介



ゲイ男性によるコーラスもあります
 11/28(土)14:15~



<http://www.ca-aids.jp/taw/>

編集後記

▶▶▶今号からニュースレターのデザインを担当。なんとか完成してホッとしています。締め切りを守らない人にはムチが飛びますよ~。ピシッピシッ!(まの)
 ▶▶▶今年から、東京でもTOKYO AIDS WEEKSがはじまる。国立国際医療研究センターの吹き抜け空間での合唱、長谷川博史氏の詩の朗読、必聴です。他に、多様なプログラム開催されます。エイズ学会に参加予定の方、ぜひ前倒しして東京にお越しください。(いくしま)▶▶▶住んでいるアパートの隣家が建て直しのために忽然と更地に。鬱蒼とした庭の樹木たちもなくなってしまったのは残念だけど、ものすごく日当たりは良好に。そうだ布団を干そう!(やじま)

編集・発行 特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403
 TEL. 03-3361-8964 (月~土 12~19時 ※祝祭日を除く)
 FAX. 03-3361-8835
 E-mail office@ptokyo.org
 ぶれいす東京 <http://www.ptokyo.org/>
 Gay Friends for AIDS <http://gf.ptokyo.org/>
 Twitter @placetokyo (<http://twitter.com/placetokyo>)
 Facebook <http://www.facebook.com/PLACETOKYO>